



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和5年6月30日

7月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

行動を通して引き継がれるもの

校長 角井 治朗

梅雨明け前の蒸し暑い日が続く中、6月は全校ウォークラリーや4年生の愛川宿泊体験学習、音楽朝会での5年生の発表、そして、土曜参観等多くの行事がありましたが、その一つ一つで、子どもたちのがんばる姿、成長の様子を見ることができました。保護者の皆様には、多くのご協力をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。また、19日にはPTA役員、校外委員さんや見守り隊の方々とスクールゾーンの安全点検も行いました。大変暑い中でしたが、子どもたちが日々登下校する道路の状況を直接確認する貴重な機会になりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

さて、冒頭にも触れたように多くの行事が行われた6月、その中で今回話題にしたいと考えたのは、23日行われた避難訓練です。避難訓練は6月に限らず、年間を通して繰り返し行われる学習で、その都度、地震や火災、不審者対応など、様々な場면을想定して訓練を行っています。訓練では、「自分の命は、自分で守る。」「みんなの命は、みんなで守る。」という言葉を繰り返し伝えていきます。いざという時に子どもたちがパニックに陥るようなことがなく、状況に応じた最善の対応が取れるようにするためには、こうした繰り返しがとても大切だと思っています。今年度に入ってから、今回が3回目の訓練でしたが、訓練の様子を見ていると普段元気いっぱいの子供たちが、本当に肅々と、誰一人私語を発することなく上手に避難することができており感心しました。何度も経験してきたり指導を受けてきたりしている高学年の子供たちなら納得するところですが、経験の少ない1年生もがなぜこんなにしっかりと避難ができるのかと、少し不思議に思うくらいでした。ですが、避難後に先生の話聞く6年生の姿を見て納得しました。訓練の場にいると感じるあの緊張感を上級生がつくり出し、それを1年生もしっかりと感じ取っているからこそ、自然と行動に表れるのです。ほんのわずかな瞬間であっても、こうした体験を通して肌で感じたことが、学校のよい伝統として受け継がれていくのだと改めて感じた一場面でした。そして、これからもこうした子供同士が関わり合いの中で育っていく場面を大切にしていきたいと感じた瞬間でもありました。

いよいよ7月です。楽しみな夏休みが近づき、子どもたちもわくわくそわそわとしたり、開放的になったりして、事件や事故につながりかねない事案も起こりやすい時期です。「自分の命は、自分で守る。」を忘れず、子どもたちが楽しく有意義な夏休みを迎えることができるよう、学校でもしっかりと指導を進めていきますので、引き続きご家庭でもご協力をお願いいたします。子どもたちが学校ではできない豊かな体験を通して、心も体も大きく成長する夏休みになることを願っています。